

SDGs活動を強化

富士マテリアル 植栽事業参画

特金スクラップ問屋の富士マテリアル(本社大阪府浪速区、西尾一社長)はSDGs活動を強化する。このほど本社と大正倉庫(大阪市大正区)周辺の清掃活動を実施したほか、緑化活動として街路樹を植栽する「大阪府マイツリー事業」に参画する。企業イメージ向上が人材採用にも成果を上げている。

イメージ向上、採用で成果

同社はニッケル、コクラップを扱い、大手バルト、チタン、タンステンレスメーカー向けの納入や貿易業務を行っている。昨年10月に富士興産(本社同)の原料リサイクル事業

を分離・移管し、新会社として発足した。年間取扱量は1万ト。前年並みの数量を維持でき、支えていた取引先の皆さまには感謝を申し上げたい(西尾社長)。

SDGs活動は前身の富士興産時代から継続している。地域貢献活動では、大阪に拠点を置くプロバスケットボールチーム・大阪エヴェッサのチャリティイベントナーを務め、小学校に「大阪エヴェ

ッサノート れんらくちょう」を毎年寄贈しているほか、倉庫を構える大正区の中学校には9月にバスケットボールを寄贈した。

9月19日には本社と大正倉庫周辺の清掃活動を実施し、「近場だけでなく広く清掃し、感謝の声も掛けていた。こちらの活動も引き続き定期的に継続していく予定だ(同)。

さらに新たに緑化活動として、大阪府に街路樹を寄付する「大阪府マイツリー事業」に応募する。植栽した街路樹には社名入りの樹名プレートが取り付けられる。

これらSDGs活動は、社外からコンサルタントを招き、定期的に行う全社員参加型のワークショップで出た意見から実現したものの。その一環である健康経営の取り組みでは、健康食サービスやスポーツジム利用補助など実施し、全社員で年間20日の有給休暇消化100%を達成するなど、ライフワークバランスの充実に努めている。

新無機黒色顔料を開発

三菱マテ 可視光遮光率1.5倍



三菱マテリアルは、可視光線を有する接着剤など幅広い用途へ色顔料「ナイトブラックUB-3」を開発し、た発表した。可視光域の遮光率が従来製品に比べて1.5倍向上した。

は、熱硬化技術や紫外線(UV)による光硬化技術で製造する。光硬化は低温処理が可能で、微細構造への適応性や硬化精度も優れている。豆等での使用に

同社は2017年に独自の窒化還元技術を用いて、UV透過率が高い無機黒色顔料ナイトブラックUB-1を開発。21年には性能を向上させたナイトブラックUB-2を開発した。このほど、UV透過率を同等に保ちながら可視光域の遮光率を高めたUB-3を開発した。

光硬化のためのUV照射時間を従来比で半分以下に短縮する。また、

SWCC、特別講演会開く

芝浦工大・ヤンマーHDと

SWCCは芝浦工業大学と12月に芝浦工大・豊洲キャンパス(東京都江東区)で、ヤンマーホールディングスを学術技術の推進・発展に

「超多様性」とは、SWCC・会長や芝浦

子副学長

演を行う

動のテク

多様なヒト

を議題とす

イスクッシ

へリカ

核融

核融

トアップの

ユージョン

京都中央区

CEO)は

大学と核融

策に向けた

始めたこと

融合の社

け、実現し

過程におい

り得る哲学

的論点の整

進める。

同社は核

る2030

発電を目標

核融合の社

けて技術的

くをクリア

るが、哲学

点での研究

行われてい

核融合は